

** Financial Market Outlook **

Financial Market Outlook

ダウ平均株価が3万3千ドルを上回り、史上最高値を更新

<サマリー>

(2/16)日経平均株価が30年ぶりに3万円台を記録。

(3/15)FBRが金融緩和策の維持を表明。

<トピックス>

I:日本/世界経済トピックス

- 2月16日、新型コロナウイルスのワクチン普及やアメリカの追加経済対策への期待感、国内企業の業績改善も追い風となり、東京株式市場では1990年8月1日以来約30年半ぶりに3万円台の高値を記録した。
- 3月12日、バイデン大統領の強い働きかけから、日本、アメリカ、オーストラリア、インドの4ヶ国が参加してオンラインでの首脳会談が行われ、ワクチンの供給、気候変動、最先端技術など多岐にわたる議論が行われた。このQuad(クアッド)の構想は2006年に安倍首相が4か国による戦略的対話の枠組みを提唱したことがきっかけとなった。
- 3月15日、米連邦準備理事会(FRB)は臨時の連邦公開市場委員会(FOMC)を開催し、新型コロナウイルスによる経済的な混乱の収束後に正常な状態に戻ることを促すための措置として、フェデラル・ファンド(FF)金利の誘導目標を1.0ポイント引き下げると決定した。
- 3月31日、世界全体の新型コロナウイルスの累計感染者数が1億2,249万人を突破し、世界全体の死者は300万人を突破する見通しとなった。国別では1位がアメリカ、続いて2位インド、3位ブラジルとなり、ヨーロッパでは、フランス、ロシアをはじめ感染が拡大している一方、昨年12月からワクチン接種を開始したイギリスでは、死者および入院者数が減少傾向となった。

II:株式市場動向

- 2020年第4四半期(1月~3月)は、前四半期から上昇基調が継続している。また、FRBは今年の経済成長率が6.5%に達すると予想し、失業率は年末までに4.5%に低下するとの見通しを示した。また、バイデン政権による巨額インフラ投資計画を中核とする経済対策が公表され、雇用情勢は依然として厳しい状況ではあるが、今回の追加経済対策で家計や企業の下支えを行う方針を示した。

- ・ 感染拡大で実体経済が厳しさを増すなか、米国の3月の雇用統計で雇用者数の伸びが市場の予想を大きく上回り、経済の回復スピードが加速しているとの期待が膨らんだ。また、株価の重しとなっていた長期金利の上昇に懸念はあるものの、IT関連の銘柄が多く買われ、ダウ平均は3月26日に3万3,072ドルをつけ史上最高値を更新した。

III: 為替相場

- ・ 2月は経済正常への化期待感から、米10年債利回りが上昇するなど、長期金利を巡る不安定な動きが続いた。また、ドル円相場は3月末に約1年ぶりに110円台を記録した。2021年の為替相場ではドル安・円高基調が継続するかどうか最大の焦点になるものと考えられる。

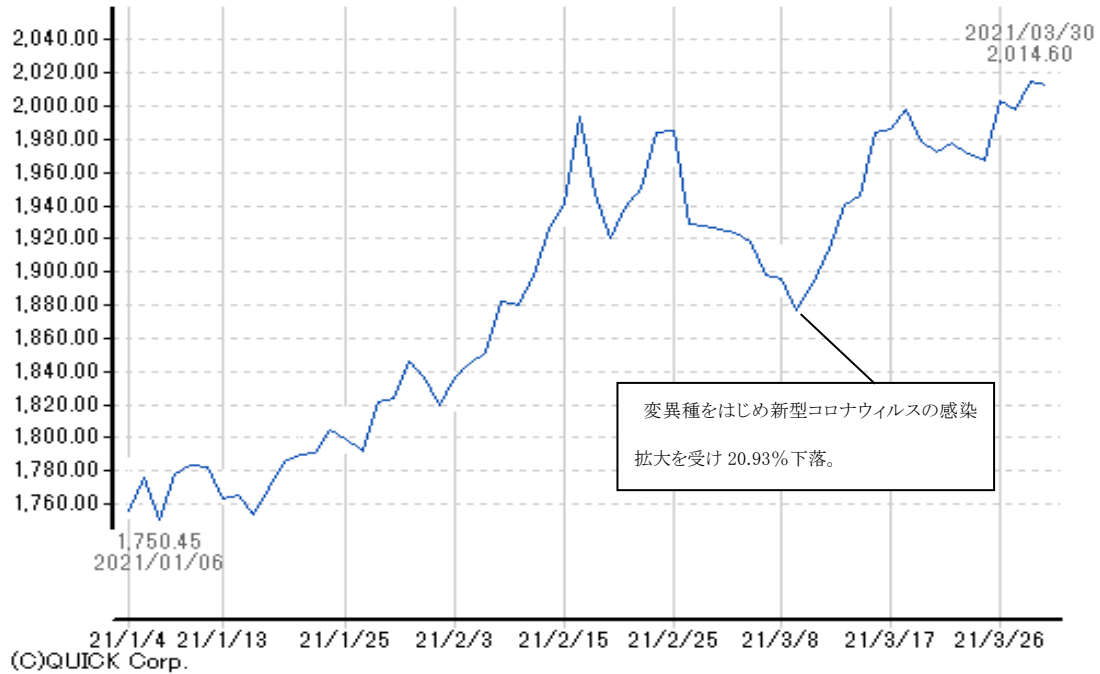
IV: J-REIT/不動産関連セクター動向

- ・ 2月初旬までJ-REIT指数は上昇基調であったが、下旬にかけては、10年債金利が約5年ぶりに急上昇したことなどが嫌気され、下落基調となった。上場銘柄数はMCUBS MidCity投資法人と日本リートファンド投資法人の合併によって1銘柄減少し、61銘柄となった。取引価格は継続して高水準を記録しているものの、金利の先行き懸念による配当利回りへの影響が、取引の重荷となる可能性がある。
- ・ 3月の東証REIT指数は、前月比+4.35%となり、5ヶ月連続で上昇した。セクター別では物流、住宅、オフィス系の銘柄が上昇したのに対し、感染再拡大を背景にホテル・商業施設系の銘柄は伸び悩む展開となった。コロナ禍の長期化によりホテル系銘柄は特に厳しい状況が続いている。

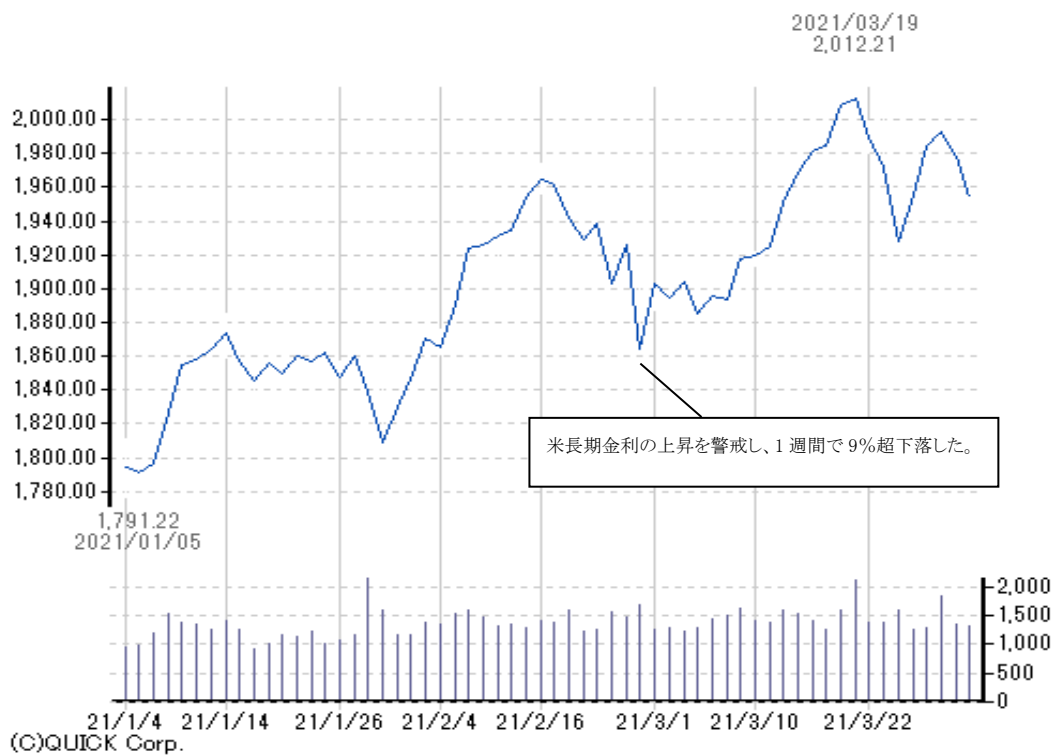
V: Financial Market Outlook

- ・ 2020年度第4四半期(1月-3月)の世界市況は、依然として新型コロナウイルスが世界的に感染拡大している一方で、ワクチン接種の開始により一部の国で感染者数の激減が見られた点に集約される。また、バイデン政権による1兆9,000億ドル規模の新型コロナウイルス緊急経済対策法案が成立したものの、財源には増税が見込まれており、今後の米経済への影響が懸念されている。しかし、これらの財政パッケージは米国経済を強力に後押しし、主要な貿易国にとってプラスに波及することが予想されている。ワクチン接種の有効性やスピードよりも変異種の拡大スピードが加速するなどの要因から、予想以上に感染者が増加した場合は、景況感の低下につながりかねないため、引き続き金融緩和政策の維持拡大、新型コロナウイルスに対するワクチンの開発や十分な供給体制の整備がこれまで以上に求められることとなるであろう。

【東証 REIT 指数】



【TOPIX】



【各種経済指標】

| 指標 | 令和2年12月末 | 令和3年3月末 |
|--------------|---------------|---------------|
| TOPIX | 1,804.68 ポイント | 1,954.00 ポイント |
| ドル/円 | 103 円 20 銭 | 110 円 70 銭 |
| ユーロ/円 | 123 円 08 銭 | 129 円 82 銭 |
| 東証 J-REIT 指数 | 1,783.90 ポイント | 2,013.08 ポイント |

重要なお知らせ

本資料は情報提供を目的としたものであり、特定の有価証券の投資や取引を勧誘するためのものではありません。本資料のデータは信頼できるソースに基づき記載されてはおりますが、その完全性や正確性を保証するものではありません。本資料に於きます当社の見解も現時点のものであり、将来的には予告なく変更される場合がございます。つきましては、投資のご判断はお客様ご自身で行ってくださいますよう、御願いたします。

又、本資料は当社の著作物ですので、本資料の引用や転載、複製を禁じます。

東京キャピタルマネジメント株式会社

関東財務局長(金商)第 1388 号 (投資運用業、第二種金融商品取引業者、投資助言・代理業)